

学生のコンピュータ室利用状況に関する調査(2)

倉澤 寿之

昨年の報告(倉澤, 2001)と同様の方法により、コンピュータ室の利用情報を収集、分析した。データの記録方法などは、昨年のものでほとんど同じであるため、今回は方法を割愛し、分析結果のみ述べることにする。ただし、分析対象期間については、前回報告と異なる点がある。今回の報告でも、祝日と全面休講日を除く4月から12月までの通常授業日を分析対象とする予定であったが、8月16日の電気設備点検に伴う停電後、データ収集プログラムが正常動作しておらず、10月16日夕刻に復旧するまでのデータが収集できなかった。そのため、本来なら今回の分析に含まれるはずの、9月25日から10月16日が分析対象から外れているという点である。したがって、今回の分析対象期間は、2001年4月6日～7月19日、10月17日～12月22日のうち、日曜祝日と全面休講日(入試や白梅祭)を除く138日間であった。

結果と考察

(1) コンピュータの利用率

教室単位のコンピュータ利用率

図1-1～図1-6に、曜日ごとの教室別コンピュータ利用率を示す。昼前後が高い傾向にあり、また第一コンピュータ室の利用率が高い傾向にある点は、昨年と同様である。しかし、昨年と大きく異なるのは、概して利用率が低いという点である。たとえば授業の影響を受けにくい第一コンピュータ室で比べてみると、昨年度はどの曜日もピーク時に70～80%の利用率があるのに対し、今年度は40～50%が最高である。大雑把に言って、3割ほど利用率が下がっていることがわかる。

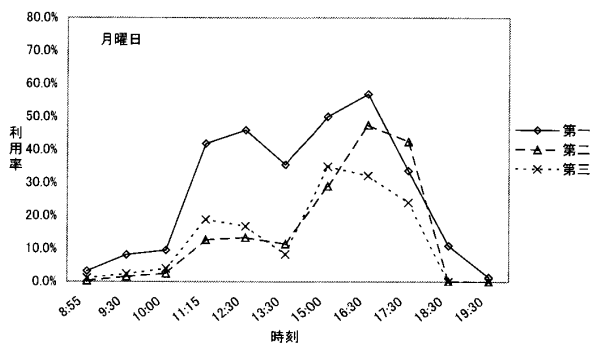


図1-1 教室単位のコンピュータ利用率(月曜日)

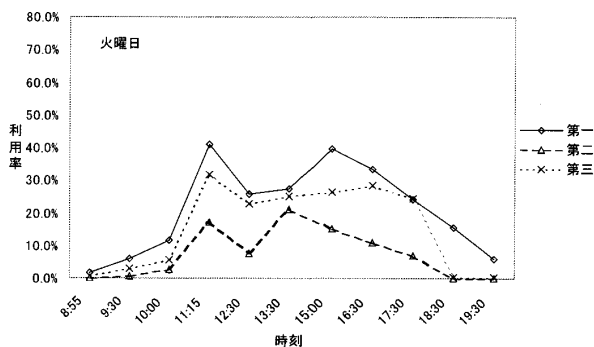


図1-2 教室単位のコンピュータ利用率(火曜日)

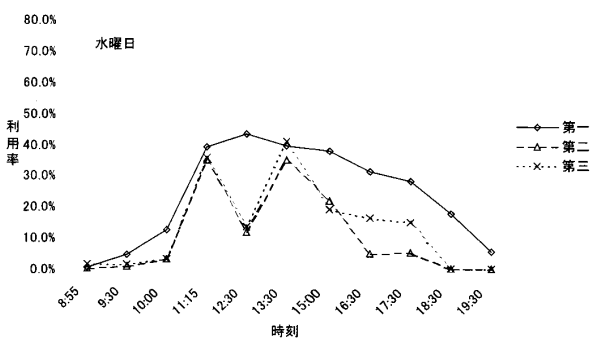


図1-3 教室単位のコンピュータ利用率(水曜日)

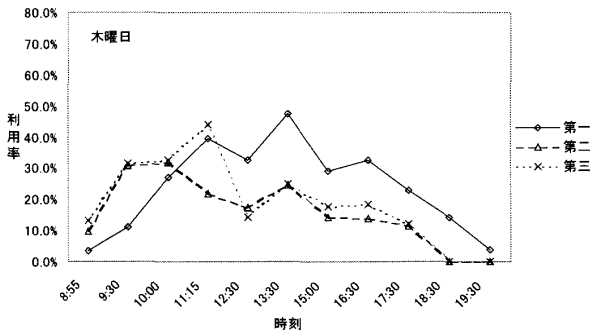


図1-4 教室単位のコンピュータ利用率(木曜日)

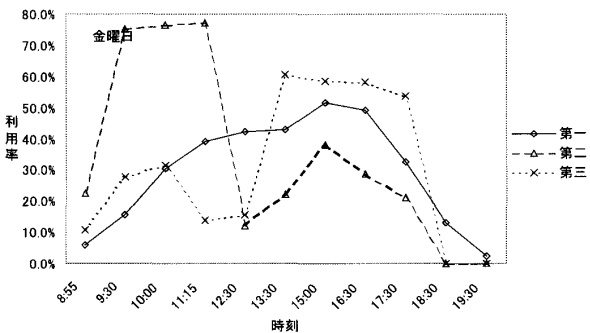


図1-5 教室単位のコンピュータ利用率(金曜日)

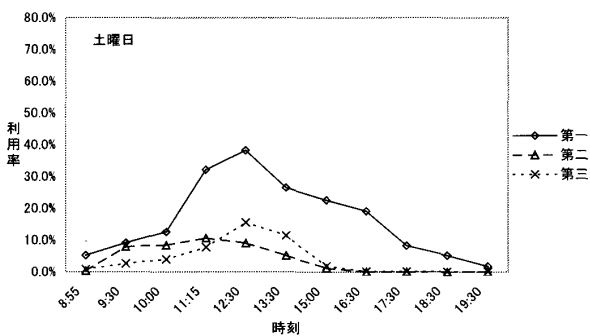


図1-6 教室単位のコンピュータ利用率(土曜日)

コンピュータ単位の利用率

図2-1～図2-3に、コンピュータ単位の利用率を示す。この場合も、「奥のほう」「隅のほう」が好まれる傾向があるのは昨年同様であるが、やはり全体に利用率が低下している。

	窓	
	46.8%	38.3%
	27.6%	23.4%
	24.4%	14.9%
	22.3%	28.5%
	32.2%	31.0%
	入口	

図2-1 コンピュータ単位の利用率
(第一コンピュータ室)

	教卓				入口
	33.1%	22.7%	22.9%	33.5%	
	21.6%	16.8%	16.5%	23.2%	
	17.6%	14.1%	15.3%	19.3%	
通路	16.2%	15.6%	15.4%	14.7%	通路
	13.4%	12.9%	12.3%	18.3%	
	13.6%	11.6%	13.2%	15.2%	
	18.8%	12.9%	14.4%	15.7%	
	25.1%	14.5%	15.3%	19.5%	入口

図2-2 コンピュータ単位の利用率
(第二コンピュータ室)

	教卓				入口
	37.3%	21.4%	25.7%	32.8%	
	20.2%	21.6%	22.0%	27.4%	
	16.3%	18.9%	18.9%	21.2%	
通路	16.7%	16.6%	15.8%	18.4%	通路
	15.7%	11.2%	12.8%	21.7%	
	17.8%	13.0%	12.6%	17.5%	
	11.0%	15.2%	15.1%	21.0%	
	32.8%	16.9%	15.2%	27.1%	入口

図2-3 コンピュータ単位の利用率
(第三コンピュータ室)

(2) 使われているアプリケーションソフト

表1に、利用率の高いアプリケーションソフトの一覧を示す。昨年度と同様、インターネット関係のソフトの利用、WordやExcelといった「定番ソフトウェア」の利用、そしてゲームの利用が多い。昨年と異なるのは、「OZAWA拳」というタイプ練習ソフトの利用が比較的高いことである。このソフトは、ローマ字入力専用のタイプ練習ソフトであるが、速く正確にタイプするほど高得点となり、「敵」を倒すことにつながるというゲームの形

を取っているため、通常のタイプ練習ソフトよりも人気が出たものと思われる。

なお、PhotoshopとIllustratorは、夏休みの間にアンインストールされ、代わってPaintshop Proという画像処理ソフトに置き換わった。仮に1年を通して利用可能であったとすれば、これらのソフトの利用率はもっと高かったであろうと思われる。

表1 利用頻度の高いアプリケーション

Netscape(WWWブラウザ)	72.51%
Almail(メールソフト)	27.79%
Word(ワードプロセッサ)	20.23%
Excel(表計算)	9.51%
Notepad(テキストファイルエディタ)	4.84%
MSペイント(描画)	3.42%
MSワードアート	2.91%
OZAWA拳(タイプ練習)	2.83%
フリーセル(ゲーム)	2.55%
ソリティア(ゲーム)	1.78%
Powerpoint(スライド呈示)	1.76%
マインスイーパ(ゲーム)	1.35%
Photoshop(フォトレタッチ)	1.27%
Wordpad(ワードプロセッサ)	1.14%
Internet Explorer(WWWブラウザ)	0.97%
Paintshop Pro(画像処理)	0.57%
一太郎(ワードプロセッサ)	0.54%
タイプトレーナ(タイプ練習)	0.39%
電卓	0.17%
Movie Player(動画再生)	0.09%
CD Player(CD再生)	0.09%
Dr. Watson32(エラー処理)	0.08%
Illustrator(描画)	0.08%
タスクマネージャ(タスク処理)	0.07%
Word Viewer(Word文書閲覧)	0.01%

(3) 学科別の利用者

表2に学科、学年別の利用者の傾向を示す。データ収集の際、検出されたユーザIDを元に学科ごとに合計した数字、すなわち検出回数を、年度当初の登録者数で割ったのが利用指数である。昨年度のものとは比べると、心理学科の利用指数が高いことや、概して情報処理の授業の多い1年生の利用指数が高いことなどの傾向に違いはない。しかし、ここでも全体の利用率の低下を見ることが出来る。福祉援助学科の2年生のみ、昨年に比べて利用指数が増加しているが、その他ではいずれも昨年の数字を大きく下回っていることがわかる。

表2 学科学年別利用者

学科・学年	検出回数	登録者数	利用指数
保育科1年	4,214	251	16.8
保育科2年	1,126	251	4.5
福祉援助学科1年	159	87	1.8
福祉援助学科2年	3,308	88	37.6
心理学科1年	3,218	99	32.5
心理学科2年	4,000	122	32.8
教養科1年	486	20	24.3
教養科2年	877	50	17.5
専攻科保育専攻1年	12	17	0.7
専攻科保育専攻2年	99	10	9.9
専攻科福祉専攻	231	28	8.3
合計	17,730	1,023	17.3

(4) まとめ

昨年の結果と比較して、大きく異なるのは、利用頻度が大きく低下していることである。そのことは、コンピュータ室ごとの数字、コンピュータごとの数字、および学科学年ごとの数字のいずれにも言える。学生数も減少しているものの、その数は1割程度である。しかし、利用頻度を表す数字を見ると、どれも3割から5割ほどの低下を示している。

この低下には、携帯電話の普及が影響している可能性がある。最近の携帯電話にはほとんどインターネットとの間で交換できるメール機能が付いているし、またWWWのブラウジングが可能なものも多い。そのため、学生たちの中に、わざわざコンピュータ室まで行かなくても済む環境が整いつつあるのではないかと思われる。メールを読むことひとつを取り上げてみても、コンピュータ室では、まずコンピュータ室へ行き、機械を立ち上げたり、ログオンしたりといった作業が必要であるのに対して、携帯電話メールなら、いつでもどこでも即座に読むことが出来る。しかも、コンピュータ室では、メールが届いているかどうかについてあらかじめ知る手段がないため、タイミングが悪いと、せっかく機械を立ち上げてもメールが届いていないというようなこともあるのに対して、携帯電話メールは着信をすぐに通知してくれるため、そのような無駄な努力をすることもないのである。さらには、複数のメールアドレスを持った場合、それらを使い分けるのはめんどろが伴うので、どちらか一方だけを使おうとする傾向も想像できる。それらの結果として、コンピュータ室が利用されにくくなっているのではないかと思われるのである。

引用文献

倉澤寿之 2001 学生のコンピュータ室利用状況に関する調査 白梅学園短期大学情報教育研究 4, 5-9.